

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		「人権を尊重し、優しく思いやりのある介護をします」を一番に掲げ職員は理解しているが、「人権を尊重」する事の実体化に至っていない。	人権を尊重する事の実体化をして、理念の浸透を図っていく。	①利用者の呼名は全員の方を名字で呼ぶ。 ②排泄の失敗や排便の有無などプライバシーに関する事は他の利用者に分からない配慮をする。 ③指示的な言葉や語尾を上げた言葉はきつく聞こえるので使わない。	12ヶ月
2		徘徊、異食、排泄行為(放尿)があり、終日見守りの必要な方が増えており、玄関は日中も施錠している。	施錠しないケアに向けていく為に認知症状への対応に努める。	・玄関を施錠しない時間帯を徐々に増やしていく。 ・帰宅願望が少なくなり落ち着いて過ごせる場を提供できる様、認知症状への対応を模索し試行していく。(気分転換への誘導、症状出現時の近隣への散歩、訴えの傾聴など)	12ヶ月
3		友人、家族との馴染みの関係継続の為に関係者に対しての支援への働きかけが少ない。	各利用者への担当者を決めて情報を発信をする。	年4回の(春夏秋冬)機関紙の発行(真寿会)に合わせて、近況報告や身体状況、行事への案内の手紙やスナップ写真などを添えてお知らせする。	3ヶ月
4		食事は専任の職員が配置されている為、厨房に入らなくても出来る役割を提供して食事を楽しめる工夫がある。	・隣地の畑で収穫された野菜の下ごしらえを一緒にする。 ・デッキを利用して、随時に外の空気に触れながらの食事を楽しむ。	・野菜の皮むきや筋取りなどをお願いし手伝って頂く。 ・デッキにテーブルと椅子を置き、おやつやコーヒーを頂いたり、簡易な食事(カレーやチャーハン)は外でしてピクニック気分を味わう。	1ヶ月
5		居間と食堂が一体の構造となっており、玄関ドア越しに外から食事風景が見え落ち着ける空間ではない。	落ち着いて食事の摂れる空間を作る。(外から直接に見られない状況をつくる。)	・玄関トビラへ、目線の位置にフィルム等で、圧迫感のない目隠しをする。 ・食事時のみ、衝立を使用して外から直接見えない様にする。	1ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。